

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「海洋深層水ビジネス 曲がり角」
 - 2) 「ウイズ・エイジング」
 - 3) 「進化する夜行バス」
-

1) 「海洋深層水ビジネス 曲がり角」

海洋深層水が日本で初めて高知県と富山県でくみ上げられてから今年で20年。注目を浴び、自治体は地域振興を狙って取水施設や海洋療法施設などの施設に走った。しかし、ブームが去った今、曲がり角を迎え経営難で撤退する動きもある。

ブーム絶頂期に静岡県焼津市・高知県室戸市では大規模な施設を開業させたが、期待は外れ赤字体質と化している。今年になり市の直営に切り替えたが税負担は避けられそうになく、市民から白い目をされ「廃止すべき」という声が絶えない。

だが、用途を試行錯誤することで身の丈にあったビジネスを展開する企業もある。食料品からスポーツ飲料など商品としては特性を引き出し売上げが好調なものもあるようだ。低温に注目し、空調に活用する企業もある。地元の名産品とうまく掛け合わせるなど、一工夫で息を吹き返すこともありそうだ。

2) 「ウイズ・エイジング」

「歳相応に生活しよう」という意味で杏林大学教授で医師の鳥羽研二が提唱している。

「アンチ・エイジング（抗加齢）」は、老化現象を悪と決めつけて何とかそれに逆らおうとして、化粧品や薬品、栄養食品などで若々しく装おうとすることを指している。

顔のシワは高齢になれば避けることができないものであるが、それを何とか消したいがために危険を冒してまでも胎盤注射治療などをしてしまうもの。

それに対して「ウイズ・エイジング」は、どんな老化現象にもそっと寄り添い、生活上の不自由さはなるべく生じないように知恵を絞るものである。

老化現象を嫌ったり落胆したりせず、かといって目を背けもせず、老化を個性の一部と見なすとい考え方だ。顔のシワは高齢者の勲章と思えるような生活は人々の理想かもしれない。

3) 「進化する夜行バス」

主に東京・大阪間を運行する高速夜行バスが進化している。

夜行バスの魅力は何よりもその値段にあるが、最近ではより快適に移動ができるようにと様々な工夫が凝らされている。

その一例が大阪を拠点に事業を行うウィラートラベルの「ビジネスクラス」。今月17日から運行を開始したこの夜行バスでは、通常40席とれる車内に16席のみを設け、1席にゆとりをもたせているのが特徴だ。ゆりかごタイプのシートは162度のリクライニングが可能で、移動の疲れを軽減させてくれる。また、スーツで乗車する場合シワになるのを避けるためにオプションでナイトウェアも利用することができる。LAN・電源コンセントも搭載しているため、社内での仕事も可能で通路をカーテンで仕切り個室感覚で過ごせるようになっている。

価格は従来のスタンダードタイプの倍以上にはなるが、それでも1万円弱ということで新幹線や飛行機での移動より価格は抑えられる。また、他の交通機関では難しい早朝到着が可能であるため時間を有効に使うことができるのも魅力である。

不景気の世の中、できる限り支出を抑えたいというのは多くの人が考えると思うが、その中でも「少くくは贅沢を、安い中でも良いものを」という気持ちは少なからずあると思う。「安かろう・悪かろう」の時代は遠く昔に過ぎ去り消費者が厳しくなった現代で、こうした”プチ贅沢”を提供できるというのはどんな業種に関わらずかなり強みになるのではないだろうか。